

謎の箱の正体に迫る

京大本部構内のどこかにいるという京大探偵団。いつもは探偵業で忙しくしているようですが、今日は附属図書館に来ているようです。ちょっとのぞいてみることにしましょう。(砂場)



助手(以下、助): えーと、借りていた本ってここに返却すればいいんですかね?
探偵(以下、探): よく見たまえ。それはそもそも本の返却箱ではないぞ。
助: え、危なかった。もう少しで入れるところでしたよ。じゃあ、これは一体何なんですかね?
探: わからないことは調べる、それが探偵としての心構えではないだろうか。
助: そうですね、わかりました。でも、少しくらいは手伝ってくださいよ。

——数日後

助: 先輩、わかりましたよ。あの箱は「本de募金ステーション」とって、2013年2月から京都大学基金事務局が運営している本を使った寄付のための箱のようです。
探: なるほど、本が寄付になるのか。いったいどういう仕組みになっているのかね?
助: 仕組みは至ってシンプルで、寄付してもらった書籍類を売却して得られたお金が、全額「京都大学基金」への寄付になることになってます。(下図参照)

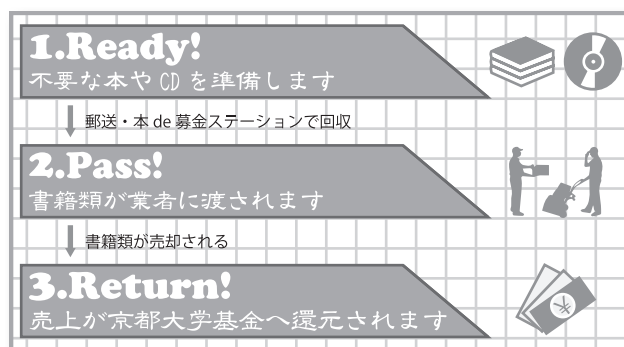
探: ふむ、書籍類とは一体何を指すのかはわかったのか?

助: えっと、本だと市販の書籍の他にも、絵本やマンガの単行本が含まれています。あと、DVD・CD・ゲームソフトも対象になっています。

探: 本以外もいいのか、思ったより幅広いな。私もあれ以降気になって観察していたが、意外に多く設置されているものだな。調べてみると、図書館以外にも大学のさまざまな場所に設置されていて、**本学構内には47カ所**にあった。

助: そんなに設置してあったんですね。だいぶわかってきましたけど、まだ知りたいことがあるので、事務局に質問しに行きたいのですが、先輩もついてきてくれますか?

探: いいだろう。私も気になることがあるのだ。



京都大学基金事務局の方に伺いました ——

——「本de募金」を始めたわけを教えてください

京都大学基金では、寄付方法の選択肢を増やして、少しでも手軽に寄付をしていただけるようにしたいとの思いから、「新しい寄付のカタチ」として導入しました。

——募金はどういうところに使われているのですか

いただいた寄付金は、京都大学の教育・研究の充実や学生支援のために役立てています。

——どういった方が寄付しているのですか

在学生、卒業生、本学教職員、その他京都大学を応援いただいている学外の皆様や保護者の方など、幅広い方々にご支援いただいています。

——これまでにどれくらいの利用があるのですか

2013年2月から2015年10月末までに、215,886点の書籍類をお寄せいただきました。

——ありがとうございました

探: なるほど、それで「本de募金」を始めたんだな。

助: いろいろ勉強になりましたね。結局のところ、あのとき本を入れてもよかったのではないのでしょうか。

探: いや、借りていた本だからだめだろう……



詳細は
こちら

はみだし
すてーじ

心もふところも寒い冬……
⇒冬はやっぱりこたつとみかんだと思います

(農・4 寒いですね)
(最後は気合で乗り切りましょう;編)